

ラオスの電力事情

1. ラオスの電力事業形態

ラオスの電力事業は、エネルギー鉱業省電力局の管轄のもと、国営電気事業者であるラオス電力公社が発電・送電・配電一貫で行っている。

2. ラオスの発電設備内訳

豊富な水力資源を持ち、発電電力は、ほぼ全てをラオス電力公社および独立発電事業者（IPP）の運営する水力発電に頼っている。

項目	ラオス	日本	(参考：東京電力)
発電設備	67.3 万 kW	27,553 万 kW	6,247 万 kW
水力	67.2 万 kW(99.8%)	4,737 万 kW(17%)	899 万 kW(14%)
火力	-	17,634 万 kW(64%)	3,618 万 kW(58%)
原子力	-	4,947 万 kW(18%)	1,731 万 kW(28%)
その他	0.1 万 kW(0.2%)	235 万 kW(1%)	0.4 万 kW(0%)

(ラオス・日本：2006 年度末、当社：2007 年度末)

送電系統は、国内 4 地域に独立して存在するほか、タイ王国、ベトナムといった近隣国との電力輸出入用の送電線も設置されており、国内系統の相互接続をはじめとした電力系統の整備計画が進められている。

3. ラオスの電力需要

経済成長、電化率の向上を反映して、最大需要、販売電力量は年々増加している。

